



体験することの大切さ

学校長 西尾武泰

梅雨の合間の晴れ空に、本格的な夏の訪れを感じさせる頃となりました。子どもたちは暑さに負けず、元気に過ごしています。

さて、学校では今年度から全学年での水泳授業が始まりました。昨年度までは新型コロナの関係で、高学年の子どもたちしか水泳の授業がなかったのですが、1～4年生は初めて、5年生は1年生の時以来の水泳学習です。シャワーを浴びて、水慣れをしてからプールに入りますが、子どもたちはきっとその学習の場で、「水の中でどのように体を動かせばよいか。」「どのように呼吸をすればよいか。」を体験するはずで、そして、普段の体育時以上に安全にも気を付けなくてはいけないことも理解するはずで。

校長室から見える中庭には1年生のあさがお、2年生の野菜の苗の鉢がきれいに並んでいます。毎朝、自分の鉢にいとしそうに水やりをする子どもの姿が見られますので、私が一緒にのぞき込むと「昨日より大きくなっている。」や「花が咲きました。」「実がなりました。」などの報告をしてくれる子がたくさんいます。さらに様子を見ると、苗の周りに虫がいたことに気づいた子もいましたし、つるが伸びてきたので、支えの棒を追加する子もいました。このようなことは子どもの心に残る素晴らしい体験だと思います。

このように、子どもたちが体験しながら学ぶ方法は、自らが主体的に学ぶことにより新たな課題や疑問を持つことにも繋がります。それが結果として子どもたちの深い学びとなり「わかった。」「出来た。」の笑顔に繋がります。



子どもたちの「わかった。」「出来た。」の笑顔は、私たち教職員の一番の喜びであり、やりがいでもあります。1時間の授業の中で、「わかった。」「出来た。」の笑顔を見るために、私たちも日々研鑽を積んでいます。画像は6月に行われた校内での研修の様子ですが、外部講師を招いて、よりよい授業をするためにはどのような体験を子どもたちにさせればよいか、どのように授業を展開すればよいかを話し合っています。

ICT や AI の進化により、バーチャルでの体験ができることも多くなりましたが、触った感触やにおい、自分の苗の成長を見守る情緒面など、実際に体験しないとわからない学びは特に小学生にとっては大切だと考えています。

これからも体験することを大切に、「わかった。」「出来た。」の笑顔が多い学校となるよう努力をしていきますので、今月もご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

